

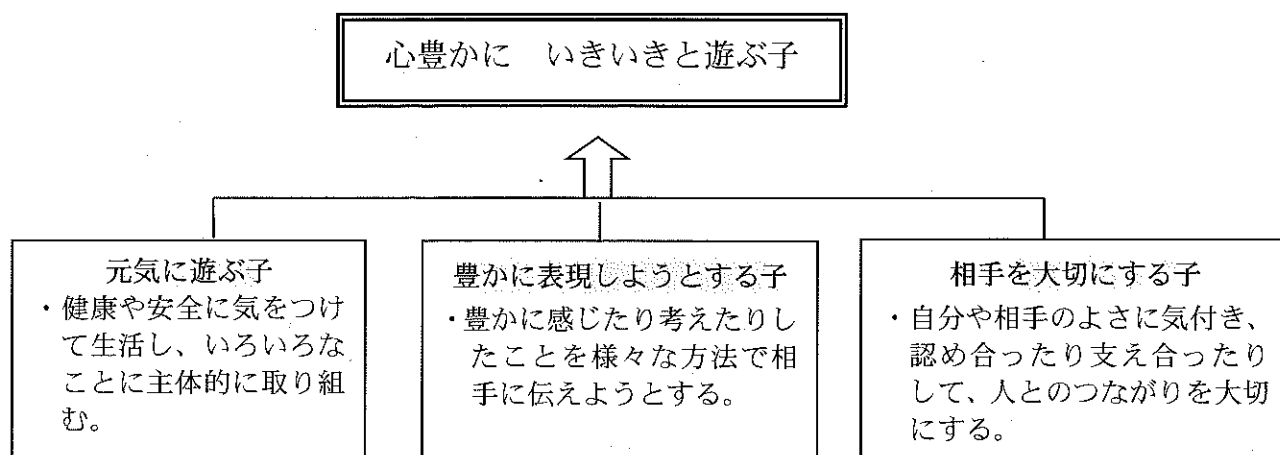
本園では、幼稚園教育の基本を踏まえ、幼児期にふさわしい生活や遊びを展開しながら豊かな心情や物事に主体的に取り組もうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度や生活習慣など「生きる力」の基礎をはぐくむ教育の推進に努め、より一層の教育充実を目指す。

I 本園の教育目標

生きる力の基礎をはぐくむ

—幼稚園・家庭・地域の連続した生活の中で—

II めざす幼児像



III 本年度の重点課題

- 1 環境を工夫し、魅力ある園づくりを進める。
- 2 3年間の発達を見通し、基本的な生活習慣や態度の定着を図る。
- 3 様々な人々との交流を深め、あたたかい人間関係の基盤づくりを進める。
- 4 体を動かす遊びを通して、健康な体と心の育成・安全安心の教育の充実に努める。
- 5 教師としての専門性を磨き、保護者や地域と連携しながら指導の充実に努める。
- 6 保育園、子育て支援センターとの交流を通して、互いの保育理解に努めて教育の充実を図る。
- 7 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、小学校と連携を図り、小学校教育への円滑な接続を図る。

IV 達成のための方策

1 環境を工夫し、魅力ある園づくりを進める。

- (1) 心安らぐ、あたたかい雰囲気園づくりを進める。
 - ① 一人一人が安定して生活できるよう、心の居場所づくりに努める。
 - ② 一人一人の思いを受け止め、よさや頑張りを認めていく。
- (2) 身近な自然とのふれあいを通して、豊かな感性や表現力をはぐくむ。
 - ① 身近な自然環境にふれ、四季の美しさや変化などを感じられるようにする。
 - ② 生き物を身近に見たり触ったりして心ふれ合う場を大切にする。
 - ③ 動植物の世話を通して、命の大切さを感じられるようにする。
 - ④ 幼児の驚きや感動などをしっかり受け止め、共感する。
- (3) 幼児が自分なりのめあてをもち、意欲的に取り組める環境を整備する。
 - ① 発達段階を考慮し、幼児が興味関心をもって取り組める環境を構成する。
 - ② 主体的、意欲的に取り組めるよう環境の再構成をしていく。
 - ③ 様々な直接体験ができる場を大切にする。

2 友達や教師と一緒に生活しながら、基本的な生活習慣や態度の定着を図る。

- (1) 毎日の生活や様々な人と交流する中で、進んであいさつができるようにする。
- (2) 3年間の発達を見通し職員で共通理解しながら、身の回りの始末や片付け、食事の仕方などがしっかり身につくよう指導していく。
- (3) 人の話を聞く時や公共の場での態度など、その場に応じた適切な行動ができるよう皆で考える場を大切にしながら指導する。
- (4) 生活のリズムや食事の習慣などが身につくよう、家庭との連携を図る。

3 人とのふれあいを通して、道徳性の芽生えや信頼感を育む。

- (1) 一緒に生活する中で、相手の思いに気付き、思いやりの気持ちを育む。
- (2) 友達と楽しさを共有し、新しいことや困難なことでも一緒にやり遂げる満足感や達成感が味わえるようにする。
- (3) 集団生活の中では、ルールがあることや自分のしたことには責任があることに気付き、守ろうとする気持ちを育む。
- (4) 保育園児や小学生、図書ボランティア、地域の高齢者など、様々な人と心が通い合ううれしさが感じられるよう継続した交流を進める。

4 様々な体験を通して、豊かな心をはぐくみ、健康な体づくりに努める。

- (1) 絵本の貸し出しや読み聞かせの機会を多くもち、お話の世界に夢を広げ想像する

楽しさが感じられるようにする。

- (2) 日本の伝統を大切にしながら、国際的な言葉や文化にふれる機会をもつ。
- (3) 戸外遊びを通して、体を動かす楽しさを感じながら基礎的な体力づくりに努める。
- (4) 野菜を植えたり育てたりして、食に対する関心がもてるようにする。
- (5) 日常生活の中で、身近な環境について考える機会をもち、ものを大切にしようとする心を育む。

5 教師の専門性を磨き、指導の充実に努める。

- (1) 教育の専門家としての資質向上をめざす。
 - ① 幼児の姿や発達段階からできるだけきめ細やかな指導計画(長期・短期)を作成し、ねらいや内容を共通理解する。
 - ② 全職員が幼児にかかわり、情報交換しながら幼児理解を深め、指導の充実に努める。
 - ③ 幼児の育ちや遊びの様子から日々の実践を点検、評価し、計画の見直しや保育の構想に努め、実践していく力をつける。
 - ④ 教師間でのカンファレンスの場を設定し、保育内容の充実と指導力向上をめざす
 - ⑤ 課題をもって取り組み、自己評価、学校関係者評価を指導に生かしていく。
- (2) 事例提供による保育研修をし、視野を広げる。
 - ① 事例を出し合い、意見を聞いて事後指導に生かしていく。
 - ② 他の教師からの事例を自分への課題として捉え、考え方を整理したり視野を広げたりできる機会として主体的に考える。
- (3) 人間的魅力のある教師をめざす。
 - ① ジャンルを超えた幅広い教養を身に付け、いきいきとした生活をする。
 - ② ボランティア活動を通して職場以外でも自分の力を発揮する。
 - ③ 互いの努力を認め合い、励まし合いながらあたたかい人間関係をつくる。
- (4) 特別支援教育の充実に努める。
 - ① 支援を必要とする幼児の発達の特性を理解し、支援計画や指導計画を作成する。
 - ② 保護者や専門機関との連携を図る。
 - ③ 様々な機会を通して、周りの幼児や保護者の理解を深めていく。
- (5) 小学校や関連諸機関との連携を推進し、育ちの連続性を考える。
 - ① 幼小接続を進め、幼児にとっての滑らかな育ちの接続性を大切に考える。
 - ② 3歳児健診で入園前の育ちや生活を知り、指導に生かす。
 - ③ 5歳児発達相談を保育にいかし、諸機関との連携を深めていく。
 - ④ 保育園、子育て支援センターとの交流を通して互いの保育理解に努め教育の充実に努める。
- (6) 社会の変化に対応し、保護者や地域との関係を構築する力をつける。
 - ① 教師の願いやねらいを伝える機会をもち、親子で成長できるよう努める。

- ② 保護者の不安や悩みについて、いつでも相談できるよう啓発し信頼関係を深める。

V 本年度の研究テーマ

遊びの充実 一人との関わりを通して

いろいろな人と関わる中で、子どもたちが主体的に遊びに取り組み、一つ一つの遊びが学びや育ちにつながっていくように、遊びの充実に向けて日々の保育にとりくんでいく。また、遊びの中の学びに焦点をあてて、心動かす体験や経験を通して環境を構成し、適切な援助を考えていく。今一度、幼児にとって大切にしたい経験を見直し、教師としての専門性を磨き、幼児が安心して生活できるように、保護者と連携しながらきめ細やかな指導に努める。

- (1) 一人一人の幼児理解を努めながら、自分が大切にされているという安心感をもてるように信頼関係を築いていく。
- (2) どのような遊びの経験が学びに向かう力につながるのか、遊びを見取り捉え、子どもの発達や興味関心に応じた豊かな環境を整える。
- (3) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、遊びを充実できるような環境を工夫し、小学校教育への円滑な接続を図る。
- (4) 異年齢児、シニアクラブや小中学生など様々な人と関わる中で豊かな心を育てていく。
- (5) 教師としての専門性を磨き、幼児の発達や学びを踏まえ、指導の充実に努める。